2019年度春季特別展

子規、人生の名場面

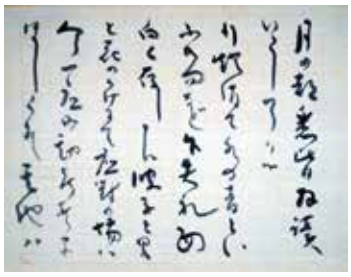
―子規が生きた証―

三十四歳十一ヶ月という短い人生を駆け抜けた子規。松山の地に生まれて東京・根岸の子規庵で亡くなるまでの間、子規の人生は劇的な場面の連続でした。

子規は人生の様々な局面で大きな志を胸に抱き、それを達成するべく挑戦しました。そのため、立身出世の大望を抱いての上京、日本新聞社への入社と記者としての活動、俳句・短歌など近代文学の革新運動など、子規は自身の人生を左右する場面に次々と遭遇します。子規は時には挫折を味わいますが、どの場面にも力強い意志と熱意を持って向きあいました。

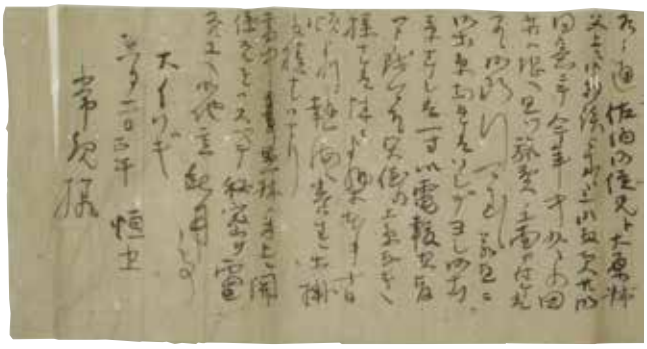
また、子規の身に起きた数々の場面は、子規と周囲の人びととの繋がりの中で生まれています。母親の八重や妹の律、叔父の加藤拓川や大原恒徳など家族・親族との絆、夏目漱石や秋山真之など友人たちとの出会いと別れ、子規のもとに集まった俳人・歌人との交流など、子規の文学活動や闘病生活などの様々な場面は周囲の人びとの存在なくして語ることができないものです。

今回の特別展では、子規の人生の中でも特に見どころとなる「人生の名場面」にスポットをあて、子規直筆の手紙や関連資料など子規が生きた証をありのままに伝える資料を一堂に展示し、子規の力強い生き様とドラマチックな人生の魅力に迫ります。



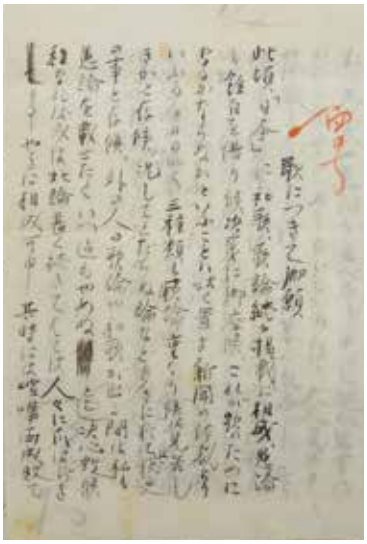
幸田露伴の子規あて書簡（明治 25 年 2 月）

子規画「玩具帖」（魚釣り玩具）（明治 35 年 9 月 2 日）

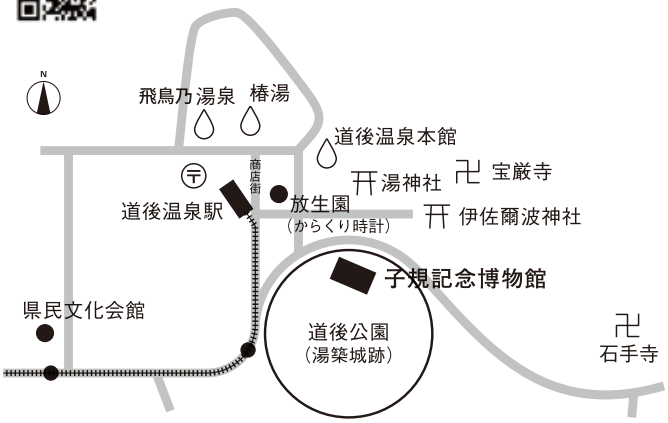


加藤拓川の子規あて書簡（明治 16 年 6 月 2 日）

子規・八重写真（明治 18 年）



子規の陸羯南あて書簡（明治 31 年 2 月 23 日）



道後温泉駅より徒歩約５分／道後公園駅より徒歩約５分
※公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館 TEL 089-931-5566 〒790－0857 松山市道後公園 1-30
施設運営・管理／株式会社レスパスコーポレーション http://sikihaku.lesp.co.jp/